

平成26年度 総合的な学習の時間にかかわる現状と課題

部長 小海 信幸

1 総合的な学習の時間の動向

各郡市に於いては、学習指導要領改訂の趣旨を踏まえて、総合的な学習の時間の充実を図るために、地域や実践に学ぶことをテーマとして取り組んできた様子が見えてくる。

(1) ふるさとへの愛着を育むため、地域素材の教材化や地域施設の活用

- ・十日町・中魚では、地域素材の開発のため、農と縄文の体験実習館「なじょもん」を活用した研修を行った。施設の利用の仕方や郷土のよさを知る体験となった。
- ・柏崎市では、「小中一貫教育」「柏崎カリキュラム」を自校化するために、教育センター研修講座と連携した研修会や中学校区を単位とした情報交換会を開催した。
- ・長岡市三島郡では、「ふるさと長岡の歴史・自然・文化等を再認識することで自校の総合的な学習の時間の充実を図る」をテーマに、今年度リニューアルオープンした市立科学博物館にて研修した。施設の活用等、多くの知見を得る研修となった。

(2) 「探究的な学習」や「共同的な学習」を指向した取組

- ・燕市西蒲原郡では、講演会の開催により、「探究的な学習」や「共同的な学習」の重要性と、総合の学びを子どもの生き方につなげるポイントを学ぶ研修となった。
- ・上越市では、県小教研指定生活科研究大会に参加し、自己の課題意識に沿った研修を行った。春日小学校では、長期にわたる単元構成、自由度の高い活動を学ぶことができた。高志小学校では、子どもの姿や次に生じる出来事を予測し、活動を見守ることを積極的に選択する教師の役割を学ぶことができた。
- ・妙高市では、児童生徒が探究的な学習を進め、各教科等で習得した知識技能等を活用して問題解決するために、「没頭・関連付け・主張形成」を生み出す展開のあり方について研修を深めた。

(3) 思考力・判断力・表現力を高めるための言語活動の充実と思考ツールの活用

- ・胎内市では、実践発表会と授業研究会をとおして、ファシリテーションやイメージマップ、ホワイトボードの活用による言語活動の活性化について知見を得た。
- ・見附市では、「思考力を高める学習の展開・方策」をテーマに研修している。講話をとおして、思考力を高める学習の展開と方策について学ぶとともに、ファシリテーション・ホワイトボード・ランキング等の思考ツールを知ることができた。
- ・南魚沼市では、「本当の学びを考える」をテーマとした講演会から、「『インプットした体験や言葉を、言葉や図表等でアウトプットする』の繰り返しで思考力・判断力・表現力を高めることになる」を学ぶ研修となった。

2 総合的な学習の時間の課題

- ・総合的な学習の時間が体験活動だけで終わらず、「ふるさとへの愛着と誇り」や「探究的な学習」につながるようにすることが大切である。そのために、各教科領域等との関連や役割分担、小中9年間を見通したカリキュラム構成などが必要となる。
- ・体験活動が児童生徒の学習を一層充実したものとなるよう、言語により分析し、まとめたり表現したりする学習活動をより一層取り入れる必要がある。思考の可視化やファシリテーション等の有効活用も期待される。